

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2794900023		
法人名	社会福祉法人成和会		
事業所名	グループホーム菊水苑喜志の郷		
所在地	大阪府富田林市桜井町2-1835		
自己評価作成日	平成 23年 2月 25日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

菊水苑喜志の郷では理念にあるように家庭的な雰囲気の中で、1人ひとりの尊厳を大切に、その人らしく生活ができるようにスタッフが常に寄り添い共に歩んでいける施設を目指します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2794900023&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 4月 7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に定着した社会福祉法人が運営するグループホームで、小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、近隣に同法人の特養があります。開設後3年余りの事業所ですが、地域の方やボランティアとの交流は増えています。広くて明るくゆったりとしたリビング・食堂からは季節の花のあるバルコニーや周辺の緑のある田園風景が見渡せ、地域の人にいただいた花を生け、「春」の字を桜の花びらで描いた壁画や利用者のにこやかな笑顔の行事写真が飾ってあります。椅子やソファ、カーテンを2階はピンク、3階は黄色の落ち着いた色調で統一し、心の和む気持ちのいい共用空間となっています。チームワークのいい職員と、ホームに協力的な家族に囲まれた利用者は、毎日2~3種類のメニューから好みのもを選択できる食事を楽しみながら、医療的な不安もなく、ゆったりとした表情で過ごしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者の</li> <li>利用者の2/3くらい</li> <li>利用者の1/3くらい</li> <li>ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての家族と</li> <li>家族の2/3くらいと</li> <li>家族の1/3くらいと</li> <li>ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>毎日ある</li> <li>数日に1回程度ある</li> <li>たまにある</li> <li>ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ毎日のように</li> <li>数日に1回程度</li> <li>たまに</li> <li>ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>大いに増えている</li> <li>少しずつ増えている</li> <li>あまり増えていない</li> <li>全くない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての職員が</li> <li>職員の2/3くらいが</li> <li>職員の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての家族等が</li> <li>家族等の2/3くらいが</li> <li>家族等の1/3くらいが</li> <li>ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全ての利用者が</li> <li>利用者の2/3くらいが</li> <li>利用者の1/3くらいが</li> <li>ほとんどいない</li> </ol>			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実際フロア入口に理念を明示しているが、職員が意識して理念を実践出来ているかどうか未知数である。	「家庭により近い環境を目指します」「自分らしさを大切にします」「地域に根ざしたホーム作りに努めます」をホームの理念として明示しています。定例のリーダー会議やフロア会議、毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、地域の人たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に近くの公園への散歩を行い、地域の方々への挨拶励行している。またご家族が面会しやすいように随時声掛けを行っている。	地域との付き合いは増え、周辺散歩の時に地域の人と挨拶を交わしたり、地域での買い物、喫茶店での食事のほか、地域の各種の行事に参加し、隣接する神社境内での掃除にも参加することになっています。地域の消防団と非常災害時における協力関係の話し合いをしています。利用者は地域のボランティアとメイクやマッサージを楽しみ、見学に訪れた小学生との交流も楽しんでいます。ケアマネジャーは地域の認知症介護家族の会の勉強会にアドバイザーとして参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は十分果たせていない。地域への働きかけ及び協力体制の整備が課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域包括支援センター職員、地域住民代表、ご家族、ご利用者の参加により貴重なご意見を伺うことが出来、サービス向上に努めている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域住民代表、家族、利用者の参加のもと、おおむね年6回のペースで開催しています。会議では事業所の活動状況や行事、利用者の生活状況などの報告を行い、外部評価結果への対応や地域との関わりの深め方などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に事故報告書・入居者情報の提供を行うことで市役所担当と連携を図っている。	市の担当職員とは普段から事故報告や入居者情報などの相談、交流を図り、外部評価や運営推進会議の結果についても報告しています。管理者は市の事業所連絡会にも出席しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロー会議で身体拘束は基本禁止の意識付けを行い、去年身体拘束を廃止出来た。またエレベーター横に暗証番号を掲示したことで、自由に往来が出来る環境になっている。	前回の外部評価以降、1階に通じるエレベーターの操作盤横に電子ロックの暗証番号を表示しています。外出願望の強い利用者には、職員による付き添いや見守りで対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者からの伝達及び回覧で虐待防止の周知徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3F では成年後見人制度の利用者の該当なし。今後外部研修を通して職員と話の機会を持つ予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約開始にあたりご利用者・ご家族に説明し、理解を図っている。解約の際も同様。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情相談窓口を掲示し、管理者・窓口担当を中心に迅速な判断および周囲との連携を心掛けている。</p>	<p>家族との面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。前回の外部評価以降、季刊の「菊水苑喜志の郷新聞」と共に、担当職員が利用者の生活ぶりや行事での様子などを書いたお知らせを添えて家族に送付しています。また、家族が運営推進会議に参加して意見を述べたり、音楽療法などの行事に参加したり、家族が交流の場として昼食外食会にも参加しています。市の介護相談員を受け入れています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回の職員評価シートを活用し、個別に面接を実施している。行事計画は各担当が毎月起案書を立案し、意見が反映されたものとなっている。定期的に新聞を発行し、生活や行事の様子をお伝えしています。市の介護相談員の受け入れ及び情報交換を行っています。</p>	<p>職員は、定例のリーダー会議やフロア会議で業務の改善事項や課題について話し合い、行事企画の提案ができます。また自己評価チェック表をもとに、職員は幹部職員と面談する機会があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時リーダーから各個人の就労状況を確認し、環境を整える努力をしている。改善出来る箇所は話し合いを継続したり、提案ができるようにメンバーに働きかけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は新人職員を中心に研修機会を図っている。研修後に回覧を回し、知識共有を図っている。併せて3Fでは定期的に内部研修を持ち回りでを行いレベルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設から行事のお誘いがあったが、都合で参加出来なかった。今後も交流を図ることが出来るように連携を継続したい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を伺った後に施設見学をしてもらっている。十分納得してからの利用にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族から趣旨を十分聞き取りを行い、いつでも家族が気軽に相談出来るように声かけをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の小規模多機能型居宅介護との情報交換・他の施設からの情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が常に関わりの姿勢を大切にしている。また本人が出来る部分は極力待つようにして、出来る部分が維持出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況で随時家族に状況連絡を行い、面会の時間を楽しく過ごせるように工夫をしている。担当からも家族に声掛けを行うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出支援、行事への参加のお誘いをして、本人や馴染みの人とのコミュニケーションの橋渡しになるように努めている。	教え子が訪ねてくれたり、昔近所付き合いのあった人が、花好きな利用者のために季節の花を持ってきてくれたりすることがあります。家族のところは外泊するなどの支援をして、利用者が大事に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮・好みのレクリレーション内容の設定・実施を行っている。また行動予測して利用者同志のトラブル防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族の性格・希望を考慮しながら手紙や連絡を取るよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント及び担当が聞き取りを行い、職員全員で意向を確認している。担当・リーダーと情報共有しながら必要に応じて追記や見直しをしている。	アセスメントを確実にし、利用者の思いや希望の把握に努めています。専門家を起用して音楽療法に取り組み、思いや意向を引き出しています。	利用者の思いの本質に迫り、全職員が情報を共有するよう工夫することが期待されます。例えばセンター方式の「私の姿と気持ちシート」等を活用して、研修を兼ねて、家族と全職員で作成に取り組みられてみてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・過去に利用していたサービス機関からの情報収集・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定及び状態変化の申し送り、連絡ノートを活用している。出来る限り本人の持っている力が維持できるようなケアを模索している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が中心になり、本人・家族と相談し、現場リーダーを中心に職員からの聞き取りを参考にして3カ月毎に計画作成をしている。随時担当者会議を開催し見直しを行っている。毎月担当がモニタリングを行い、計画の支援項目を検討している。担当者会議で状態変化時に家族参加を促している</p>	<p>介護計画は3カ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。前回の外部評価受審以降、担当職員は毎月、新設の「職員モニタリング表」を使って、ケア実施状況や利用者・家族の満足度、目標達成度についてモニタリングしています。また、カンファレンスで議論し、計画作成担当者のモニタリングにつなげ、3カ月毎にサービス担当者会議を開いて介護計画の見直しを行っています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>パソコン入力で情報を共有している。特記事項を参考に必要時計画に反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の気持ちを伺うことを大切にしている。出来ること・出来ないことへの説明を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館への漫才やコンサートなどのイベントへの参加や地域からの訪問散髪有り。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携の他状態変化時の同行受診及び家族への説明を継続している。また協力医療機関への情報提供及び連携体制維持に努めている。	家族と利用者の同意を得て、協力医療機関の医師による定期的な訪問診療を受けています。専門外の診療科目について受診が必要な時には、職員が通院介助を行っています。協力医療機関と連携し、急変時対応についての体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模多機能所属の看護師に浣腸の依頼や状態変化時に連絡し、適切な看護やアドバイスが受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後も定期的に病室を訪問し、主治医及び関係者からの情報収集を行い、配慮すべきポイントを抑えるようにしている。受け入れ病院については定期受診等で関係性を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本ターミナルケアの受け入れは行っていない。重症化した場合は、計画作成担当者が中心となり、かかりつけ医や家族・関係スタッフに今後について情報を提供及び相談し調整を図っている。	ホームで看取り実施の方針はありませんが、特養を含め法人全体で対応するよう体制を整えています。利用者が重度化した場合でも、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医と連携を図っています。状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、看護師、家族と話し合いをしながら対応していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年新人職員を中心とした消防署における救急講習の計画・実施を行っている。また会議にてシュミレーションで初期対応の判断で必要な事項を確認し、危機意識の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的な消防訓練の実施を行っている。(そのうち1回は消防署指導有り)災害時は、緊急連絡体制でバックアップ施設である特別養護老人ホーム喜志菊水苑からのサポートがある。	災害に備えるマニュアルを作成し、年に2回夜間想定を含め避難訓練を実施しています。そのうち1回は、消防署の指導のもと行っています。地域との協力体制について地域の消防団と話し合っています。災害時の飲料水と食料品の備蓄についても実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が傷つく言葉かけや強い口調がないかをスタッフ間で確認・注意し合っている。個人情報の取り扱いに関しては契約時に書面を交わしている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう職員の言葉かけや態度は明るく丁寧であり、やさしい雰囲気です。職員採用時に、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の選択メニュー決定を伺ったり、その他本人からの希望を必ず聞くようにして自己決定ができる環境を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の業務は決まっているが、利用者の気分や体調に合わせて業務を変更できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問散髪がある。また希望時は行きつけの美容室を利用されている方もおられる。食後の衣類の汚れはすぐに着替えるようにして整容に気を付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に考慮しながらおやつ作りを一緒に行い、片付けをしている。また楽しく和やかな雰囲気で作ることが出来るようにしている。	近隣の同一法人の特養から調理済みの食材を取り寄せ、利用者は好みに応じて2～3品のメニューの中から選択することができます。また食事について利用者にアンケートをとり、メニューの改善につなげています。利用者は食事準備、後片付けなどのそれぞれの得意な分野で参加しています。職員は同じものを一緒に食べながら利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートを行い、和やかな雰囲気作りをしています。利用者も調理に参加するお好みメニューの日やおやつ作りの日があります。担当職員や家族と外食を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を活用して把握に努めている。1人ひとりの食事が適量であるかを観ている。食事時間がずれる方への柔軟な対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとりの口腔ケアの準備からサポートまで行っている。歯痛があれば地域の歯科医に連絡し往診してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要物品の選定・見直し及び個々の能力に応じたトイレ誘導を行っている。	排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握しています。声かけや前誘導を確実に行うことで、リハビリパンツや布パンツでの生活が維持できます。新しく入居した後、オムツがはずれた利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要時に腹部マッサージを行い、頻繁に便秘になる人は1日の目標水分量を決めて促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人週3回入浴を実施し、楽しんで頂いている。入浴を拒否される方は次の日に変更し、臨機応変な対応を心掛けている。	前回の外部評価以降、職員の体制整備や利用者の入浴意欲の向上に取り組み、平均して週3回の入浴を楽しむようになり、家族や利用者に喜ばれています。ほぼ毎日入浴する利用者もいます。季節感を味わうため、菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な疲れが出るようにレク等を行い、室内適温・照度に留意し、安眠に繋がるようにしている。不眠の方への対応は出来る範囲で見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤師からの薬の説明があり、内容不明時や処方について相談出来る体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族・本人から生活歴を適宜伺いスタッフ間で認識するようにしている。好きなものや楽しみを探して少しでも気分転換が出来るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員体制で希望日時での外出が難しいが、家族への協力要請及び業務の合間をみて薬局やスーパー・ドライブに出掛けて地域への関わりを支援している。	ホームの隣にある木の生い茂った神社や市民会館の緑地、田園風景の残る周辺への散歩や馴染みの美容室、喫茶店やドライブなどに個別や少人数で出かけています。利用者は集まってくれた多くの家族とともに公園での昼食会を楽しんでいます。初詣や季節の花見にも出かけ、家族との食事や買い物で外出や外泊もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に小銭の所持はしてもらっているが、高額な金額は家族へお返しするか預かっている。買い物時はなるべく本人に支払いしてもらうように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	スタッフが電話利用のサポートをして家族への連絡やお手紙のやり取りを行っている。家族に本人の希望や伝言をするようにしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた室温調整及び飾り付けを行うことで心が和みストレスが感じにくくなるような温かい雰囲気作りに努めている。	広くて明るくゆったりとしたリビング・食堂からは、季節の花のあるバルコニーや周辺の緑のある田園風景が見渡せるようになっています。また、地域の人からいただいた花を生け、「春」の字を桜の花びらで描いた壁画や利用者のにこやかな笑顔の行事写真が飾ってあります。椅子やソファ、カーテンを各階で色分けしており、2階はピンク、3階は黄色の落ち着いた色調で統一し、心の和む気持ちのいい共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー・廊下にソファや椅子を設置し、一人になれる居住空間を大切にしている。日中居室でラジオを聴いたり昼寝をしてゆったり休息している方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との思い出の写真を飾ったり、お花を置いたりして馴染みのあるものを置いて利用者の精神安定に繋がっている。	居室入口には利用者毎に好みののれんが掛かっています。大きめの居室にはホームが準備している整理ダンスとベッド以外に、利用者の持ち込んだ飾り棚、机、椅子、ソファ、人形、家族の手紙と写真、雑誌、時計、テレビ等があり、長い時間でも居心地良く過ごせる居室もあります。しかし、多くの居室では持ち込みの家具や馴染みの物等がほとんどなく、もの淋しい雰囲気となっています。	家族の協力も得て、使い慣れた馴染みの家具や物を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせる居室作りをホームで支援することが望まれます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりが設置されており、バリアフリーの為安全に生活出来るようになっている。一部の居室内の壁やタンスに保護材を取り付け、自身で移動した際の転倒時の怪我防止にも尽力している。		